茨城野菜研究会創立４０周年記念誌

平成２６年１月２８日（火）

茨城野菜研究会

目　　次

１　茨城野菜研究会創立４０周年を迎えて

茨城野菜研究会会長　　針谷　光雄　―――１

２　茨城野菜研究会創立４０周年によせて

茨城県農産物販売推進東京本部長　　吉岡　路裕　―――２

全農茨城県本部園芸部長　　鴨川　隆計　―――３

３　茨城野菜研究会４０年の歩み　――――――――――――――４

４　提案　茨城に期待するもの、今後伸ばして行きたい品目　――８

５　資料

・東京都中央卸売市場における野菜取扱高　――――――――１２

・茨城県青果物銘柄産地等の指定状況　――――――――――１４

・平成２５年度　茨城野菜研究会会員名簿　――――――――１５

・歴代役員名簿　――――――――――――――――――――１７

茨城野菜研究会創立４０周年を迎えて

茨城野菜研究会長　　**針　谷　光　雄**
（東京千住青果株式会社）

本研究会は，京浜市場の茨城県野菜担当の諸先輩が「茨城県の野菜をなんとかしなければ」との共通認識の中，会員の皆様のご協力をいただきながら，県，全農茨城県本部とともに，一体となって築きあげてきたものであり，創立４０周年を迎えるにあたりまして，関係者に深く感謝申し上げます。

創立以降，現在まで，青果物の流通を取り巻く環境は目まぐるしく変化してまいりました。近年では，カット野菜の一層の広がり，低価格志向，少量購入，安全・安心への関心の高まりなど，消費者の動向も大きく変わってきております。また，農業従事者の高齢化等から他県産地で生産が減少している品目や，消費者ニーズの変化から新たに需要が伸びている品目もあり，首都圏に近く，広大で豊かな農地を持つ茨城県には，より期待が寄せられています。

茨城野菜研究会では，このような変化に対し，茨城県の産地はどう対応すべきかとの視点に立って，流通・販売上の課題や改善策等の指導・提言を行ってまいりました。茨城県では，「消費者のベストパートナー茨城農業」の確立を目指し，平成１５年度から「茨城農業改革」を推進しておりますが，茨城野菜研究会もこれに協力し，流通改善対策会議の開催，産地目揃会への参加，「銘柄産地」を始めとした産地への助言，県内において生産の拡大を要望する品目の提案等，各種活動を展開してまいりました。さらに，「現場で生産出荷を指導している農協の担当者や普及職員と活発な意見交換を行いたい」との思いから，昨年度，今年度と２度にわたり流通懇談会を開催しております。

平成２３年に発生した東日本大震災以降，茨城産農産物の東京都中央卸売市場における取扱高は一時低迷しましたが，食の安全安心・高品質を目指す地道な取組みにより，回復に向かっているところです。本研究会では，これからも一層，産地との連携を密にし，茨城農業発展のため力となれるよう活動して行く所存でございます。

この度，茨城野菜研究会創立４０周年に当たり，この記念誌を発刊し，本研究会の歩み，「茨城に期待するもの，今後伸ばして行きたい品目」について提案を取りまとめました。会員，関係機関，産地の皆様に，ご活用いただければ幸いに存じます。

茨城野菜研究会創立４０周年によせて

茨城県農産物販売推進東京本部長　　吉　岡　路　裕

この度，茨城野菜研究会が創立４０周年を迎えられました。この間，茨城県の野菜産地の発展に向け様々な助言指導を頂いて参りました。ここにお祝い申し上げますともに心から感謝申し上げます。

振り返ってみますと，茨城野菜研究会が発足した昭和４９年当時，本県の農業産出額は米が約３０％，畜産が約３０％，野菜（統計上の野菜＋いも類）が８４４億円で２５％という構成でした。また，当時はコメが余り，減反・転作政策が強力に推進されており，本県でも陸田にはかんしょやトウモロコシ，湿田にはれんこんなどが次々に導入され野菜生産が増えている最中でした。しかし，茨城産は量があっても，品質が低い，下級品の混入がある，出荷情報が遅い，不正確など，様々な問題があり，市場評価が低い状況にありました。

こうした中，貴研究会は，茨城の産地に出向いて出荷規格の統一，段ボール出荷の普及改善などに尽力されたほか，昭和５７年に本県が銘柄産地制度を立ち上げると，この制度をうまく活かして産地指導を強化し，産地の評価向上に寄与されました。また，平成１５年に茨城農業改革がスタートすると，品目別の指導・提言を強化して頂きました。さらに，平成１１年のＪＣＯ事故，平成２３年の福島第一原子力発電所事故により茨城県が放射能汚染の風評にさらされた折りには，正しい知識の普及や風評払拭にご尽力を賜りました。

お陰をもちまして，平成２５年の茨城県産野菜取扱高は，東京中央で４３５億円，市場シェア12.0％（全国一位）を占めるまでに至り，野菜の農業産出額（野菜＋いも類）も平成 24 年には１，８３６億円（県全体の 43%を構成）にまで伸びるなど，全国をリードする野菜園芸県に変貌して参りました。これまでご尽力を賜った茨城野菜研究会員をはじめ市場・流通関係者の皆様方に改めて御礼申し上げる次第でございます。

現在，茨城県では「茨城農業改革大綱（2011－2015）」を定め，風評払拭など震災復興を最優先に取り組み，併せて，茨城農業を一層発展させるため，消費者のベストパートナーとなる茨城農業の確立を目指しております。東京本部といたしましても，この大綱に即して，茨城野菜研究会の活動をしっかりと支え，茨城野菜の発展に努めて参ります。最後に，今後とも産地に対するご指導をお願いしますとともに，創立４０周年を機に，茨城野菜研究会の皆様が一層ご活躍され，発展されることをご祈念申し上げ，お祝いの言葉といたします。

茨城野菜研究会創立４０周年によせて

全農茨城県本部園芸部長　　**鴨　川　隆　計**

茨城野菜研究会創立40周年誠におめでとうございます。茨城の野菜発展のためにご尽力賜りました会員各社の皆様に対しまして，心から敬意を表する次第です。

貴研究会からのご提案やご指導によりまして，ＪＡグループ茨城の野菜は，品質向上や流通改善など産地振興につながり，全国でも有数の野菜産地として発展してきております。

現在農業を取り巻く環境は，円安による重油や資材原料の高騰による生産費増加，高齢化や担い手不足，そして流通販売の多様化や契約取引の増加など，生産者に直結するところが刻々と変化してきております。さらには４月以降導入される消費税アップによる消費減少への不安や農業の基盤を揺るがすＴＰＰ交渉の動きなど，産地にとって様々な問題・課題が顕在化してきております。

こうした情勢変化に対して，ＪＡグループ茨城としては「店頭ＰＲの充実」などの販促活動のほか，「担い手育成」や「実需者ニーズに基づいた契約生産・契約販売」などに取り組んでいるところです。

また消費者の食に対する安心･安全性への関心は年々高まってきており,「生産履歴記帳の徹底」,「残留農薬や放射能検査の抽出検査」，産地情報の発信の場として「いばらき農産物ネットカタログ」や新たに「青果物情報サイト　Amore アモーレ」」の開設などを実施し，消費者の負託に応えるべく努力しているところです。

産地としては，まだまだ改善しなくてはならないことが多いとは存じますが，なにとぞ会員皆様のなお一層のご支援ご指導をいただきますようお願い申し上げます。

最後に茨城野菜研究会会員各社の益々のご発展と会員の皆様のご活躍をご祈念申し上げましてご挨拶といたします。

茨城野菜研究会４０年の歩み

茨城野菜研究会が誕生する前年(昭和48年)の茨城産野菜の東京都中央卸売市場における取扱実績は166億円程度であった。その後，40年を経過した平成25年の取扱実績は435億円と，約2.6倍に拡大している。

茨城県は大消費地を控えた野菜供給圏であり，銘柄産地育成制度や茨城農業改革の取組を通して「量」から「質」への転換を果たすなど，消費者ニーズに応える産地づくりを目指して発展を遂げてきた。

平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災では生産基盤に大きな被害を受け，また，東京電力福島第一原子力発電所事故による風評の影響を被って，それまで順調に伸びていた取扱実績が激減したが，産地や流通関係者による地道な活動が功を奏し，回復に向かっている。

こうした本県野菜の成長過程，それを支えた取組にスポットをあて，研究会40年の歩みを追う。

◎研究会の発足（昭和49年）

茨城野菜研究会は，茨城県産の野菜を販売する共通目的を持った市場関係者により，「今後の茨城野菜をどうするか」という課題に対する自主的で，柔軟，自由なシンクタンク集団として結成された。発足当時の会員は京浜市場37社だった。

卸売市場法が昭和46年に改定され，流通の新しいルールが確立，また，石油ショックや激しい狂乱物価という厳しい情勢の中での結成だった。

◎新しい時代の幕開け（昭和49～56年度）

昭和50年以降は，スーパーが台頭し，市場では予約取引が進み，産地の組織力，技術力が問われ，その差が価格に反映し，量と質が重要視されるようになった。本県産野菜は順調な伸びを示してきたが，生産面，販売面等に多くの問題を抱え，大量低品質の産地イメージからの脱却が強く要請された。

◎銘柄産地育成事業のスタート（昭和57～62年度）

構造的供給過剰，健康志向，グルメ志向など消費構造がより個性化の時代を迎える中で，昭和57年には茨城県知事を先頭に，官民一体となった競争力の強い産地づくり「銘柄産地育成事業」が全国に先がけて展開された。

本研究会も茨城県産野菜のシンクタンク集団として，銘柄産地づくりをバックアップする活動を展開するため，昭和57年に果菜・葉茎菜・根菜，昭和58年に洋菜・促成の各部会を設けるなど，銘柄産地に向けて濃密な産地指導が出来る体制を整備し，部会を中心として主要な品目の課題解決にあたった。

昭和53年　貯蔵はくさい現地研修の様子

昭和62年　はくさい品質規格検討会の様子

◎野菜の過少基調で産地主導の価格形成期へ（昭和 63～平成 8 年度）

平成に入ると，一般の消費形態も高級化・差別化が進み，外食・中食など食の外部依存が急速に進展した。また，朝穫りレタスや有機野菜，完熟トマトなど特徴ある商品が高値で取引されるなど，消費の多様化が一層進んだ。

しかし，株価の暴落，証券会社の損失補填などを契機に日本経済も低迷期に入り，地価の急落や円高なども加わって複合不況の状況となったことから，これまで好・不況に比較的左右されにくかった青果業界にも，外食産業を中心とする業務需要の伸び悩み，加工・冷凍野菜や生鮮野菜の輸入増など数々の影響が現れるようになった。これに伴い，市場の取引でも予約取引の試行など現行取引の改善策などが試みられた。

◎野菜流通の多様化への対応が求められる（平成 9～15 年度）

我が国の経済は依然として先行き不透明で，個人消費の低迷状態が続いた。青果物についても輸入品の増大，取引の多様化，市場外流通の拡大及び消費者の少量多品目志向，健康・安全意識の高まり等，大きな変化が見られた。

青果物の流通においては，全国的なレベルでの産地間競争の激化や輸入野菜の増大，卸売会社の統合や量販店の再編など，大きな変革期を迎えた。

さらに，輸入野菜の残留農薬や国産農産物の表示偽装，無登録農薬の使用などの問題が，消費者に不安と不信を招いた。

県内産地においては，価格の低迷や農業従事者の高齢化，担い手不足から米に加えて園芸も生産が減少傾向となり，農業産出額が平成 13 年には初めて 4,000 億を下回り，鹿児島県に抜かれて第４位に後退する厳しい状況におかれ，全国レベルでの産地間競争に打ち勝てる産地づくりが求められてきた。

このような状況の中，研究会は，需要や流通動向に即した産地づくりを進めるため，産地とともに改善策を検討すべく産地交流会や研修会を実施した。

県においては，農業産出額の全国第２位奪還のため，平成 15 年度より茨城農業改革を開始，消費者のベストパートナーとなる茨城農業の確立を目指すことになった。研究会としても，それに則して活動をシフトして行くこととなる。

平成7年　おおばの現地調査の様子

平成13年　中国野菜の生産

・対日加工輸出状況調査の様子

◎日本のトップブランドをめざして（平成 16 年～平成 22 年）

依然，個人消費も低迷が続いている状況の中，茨城県では農業改革を推進し，農産物のなお一層の販売促進を図るとともに，流通サイドのニーズを産地及び生産者に伝え，産地育成・生産振興を推進するため，生産者団体，農業団体，県等が一体となった販売推進体制を整備するべく，平成 17 年 4 月に茨城県農産物販売推進東京本部を設置した。

研究会においても茨城県産野菜の流通，販売上の課題整理，改善策を協議するためアンケート調査や品質規格調査を強化し，産地においては流通対策検討会を開催するなどして産地に対する情報提供と提言を行った。また，産地における販売対策会議等に参画し，選別や規格等流通改善策の提案を精力的に行ってきた。

その結果，東京都中央卸売市場における茨城産青果物の取扱高が平成 16 年に第 1 位，平成 19 年には茨城県の野菜が 402 億円と初めて野菜で第 1 位となり，その後も 1 位の座を維持し続けている。

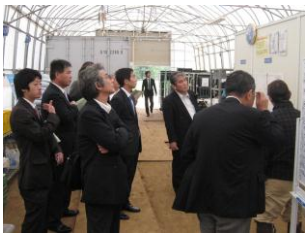
◎東日本大震災からの復興，更なる発展へ（平成 23 年～）

平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災により，茨城県の農業は土地改良施設や農業共同利用施設など生産基盤に 344.9 億円の被害を受けた。更に，東京電力福島第一原子力発電所事故によるホウレンソウ，カキナ，パセリ等の出荷制限のほか，風評の影響を被って，それまで順調に伸びていた野菜の取扱実績が激減した。県は放射性物質検査を国の通知に基づき定期的に実施し，結果を公表，産地や流通関係者による地道な風評払拭キャンペーン，企業による応援フェア，量販店での茨城フェア（４～５週の試食販売）などに取り組んだ。研究会としては，風評による価格低迷の打破，茨城フェアの開催支援，消費者への情報提供を内容とする「茨城産青果物販売強化宣言」を行い，茨城県から得られる検査情報の買参人への提供，正しい理解の推進と普及などに努めた。これらの活動が功を奏し，取扱実績は回復に向かっている。

平成２１～２５年　概況

<table>
<tr><td rowspan="2">21 年</td><td>＜主な出来事＞
・民主党鳩山由紀夫内閣が発足</td><td>＜野菜の市場動向＞
1 月は降雪と干ばつで価格高。その後 6 月まではおよそ安定して推移したが，7，8 月に天候不順による入荷減で高値となった。9 月以降の入荷量は安定し，価格安の傾向となった。</td></tr>
<tr><td colspan="2">
トマト流通改善対策会議

せり・切みつば流通改善対策会議
＜茨城野菜研究会の主な活動＞
・ねぎ，大玉トマト，レタス，かんしょ，せり・切みつば流通改善対策会議実施
・先進地視察研修（長野県：はくさい，レタス等）</td></tr>
</table>

22 年	＜主な出来事＞ ・茨城空港開港 ・九州で口蹄疫発生 ・菅直人内閣発足	＜野菜の市場動向＞ 2 月，4 月に曇雨天，冷え込みの影響から入荷減，価格高となった。7 月以降猛暑，残暑が続き入荷減，また 10，11 月には降雨の影響もあり入荷が減，大幅な高値が続いた。
	 なす流通改善対策会議　　先進地視察研修	＜茨城野菜研究会の主な活動＞ ・レタス，ねぎ，なす流通改善対策会議実施。 ・先進地視察研修（JA 茨城旭村，JA 水戸，イオン牛久農場）
23 年	＜主な出来事＞ ・東日本大震災，福島第一原子力発電所事故発生 ・野田内閣発足 ・茨城農業改革大綱(2011-2015)策定	＜野菜の市場動向＞ 3 月に発生した東日本大震災，原発事故の影響でホウレンソウ等が一時出荷制限を受け，野菜全般において需要が後退，風評による販売不振も見られ価格安となった。応援フェアが活発になり 6 月以降価格は持ち直すが，秋に気温高による入荷増で価格安となった。
	 トマト流通改善対策会議　　先進地視察研修	＜茨城野菜研究会の主な活動＞ ・レタス，ほうれんそう，トマト流通改善対策会議実施 ・先進地視察研修（長崎県：アスパラガス，ブロッコリー等）
24 年	＜主な出来事＞ ・つくば市で大型突風発生 ・自民党第 2 次安倍内閣発足	＜野菜の市場動向＞ 1～4 月は気温が低く価格高であったが，夏以降は猛暑となり消費が減退，入荷も多く，ピーマン，ねぎ等が価格安。群馬，長野が主産地となるキャベツ，はくさいは価格回復のため 9 月に緊急需給調整事業が実施された。11 月，12 月は気温が低く，価格高だった。
	 かんしょ流通改善対策会議　　流通懇談会	＜茨城野菜研究会の主な活動＞ ・レタス，かんしょ，はくさい流通改善対策会議実施 ・先進地視察研修（徳島県：カリフラワー，ブロッコリー等） ・産地と茨城野菜研究会の流通懇談会開催
25 年	＜主な出来事＞ ・安倍総理が TPP 協定交渉への参加を表明	＜野菜の市場動向＞ 1月は低温により入荷量減，価格高であったが，その後5月にかけては気温高による入荷増で価格安が続いた。6月以降は天候不順,台風により入荷は不安定となり，価格高が続いた。
	 アスパラガス産地情報交換会　秋冬ねぎ流通改善対策会議	＜茨城野菜研究会の主な活動＞ ・アスパラガス産地情報交換会開催 ・にがうり・ズッキーニ，レタス，秋冬ねぎ流通改善対策会議実施 ・流通懇談会及び茨城野菜研究会40周年祝賀会開催

提案　茨城に期待するもの、今後伸ばして行きたい品目

この提案は，平成25年12月に茨城野菜研究会会員である京浜地域の卸会社31社に対してアンケートを実施し，取りまとめたものである。

Ⅰ　茨城に期待するもの

１、最近の野菜販売情勢について

（１）消費動向の変化

【一般消費者の変化】

卸会社から見た一般消費者の変化としては，以下の点が挙げられる。

・低価格志向（高値時の買い控え，良品質のものを安価で求める等も含め 12 社回答）
・必要量しか購入しない，買いだめをしない少量購入（8社）
・料理をしなくなった（惣菜コーナーの拡大，手間のかかる食材の消費減も含め4社）
・安全安心への関心の高まり（4社），産地へのこだわり（2社）

【業務筋の変化】

卸会社から見た業務筋の変化としては，以下の点が挙げられる。

・惣菜やカット野菜の一層の広がりから，加工業向け需要が増加（5社）
・食材偽装問題以降，国産志向となるなど産地を指定した購入が増加（7社）
・良品を低価格で安定的に求める傾向が強まっている（6社）

（２）野菜販売を行う上で，今，課題となっていること。

消費動向が変化する中，今，野菜販売を行う上で課題となっていると感じているのは以下の点である。

入荷量が不安定で，価格，数量の見通しが立て難いこと。（20社回答）

その背景としては，主に天候不順の影響があげられる（12社回答）。

また，契約で先に数量と価格を決めておきたい販売先が増えており（3社回答），欠品が許されない一方で，産地の契約に対する意識がまだ低いこともあげられる。

より精度の高い産地情報（6社回答），自然災害にも強い産地づくりを望む。

価格維持の難しさ。（4社回答）

産地側では重油の高騰など，上がったコストを価格に反映させたい。一方，コンビニや量販店などでは売価がおよそ決まっており，入荷量が少ない時でも価格が上がりにくく，入荷過多の時は，多く仕入れて安売りをするということも無い。このため安値が長引く傾向にある。

その他，消費税増税，農業従事者の高齢化，減少に伴う今後の市場の在り方等が課題としてあげられた。

２、流通の立場から見た茨城の強み，弱点

流通の立場から感じる茨城県産地の強み，そして弱点は以下の点である。

茨城県産地の強みは	茨城県産地の弱点は
◎首都圏という大消費地に近い（23社） 小回りのきく対応が可能。鮮度感がある。輸送面で有利であるため，輸送コストを産地に返し，その分インフラ整備して欲しいとの意見もあった。 ◎恵まれた生産環境，生産量が多い（18社） 広大で豊かな大地，農業生産に適した風土があり，生産面積が大きい。圧倒的シェアを誇る品目も多く，物量で他県に勝っている。 ◎多品目生産（18社） 多品目の野菜が栽培でき，アイテム数が多いことから，フェアなども組みやすい。	◎品質の産地間，個人間差（20社） 次に多く挙げられた共販率の低さも影響していると思われるが，品質についての意見が最も多かった。 ◎系統共販率が低い（14社） 統率力，組織力の弱さ，産地業者の多さ等の意見が挙げられた。 ◎計画出荷に難あり（9社） 産地情報の精度，雨対策不足に対する意見も出された。

３、流通の立場から，茨城県産地に期待するもの

◎作付面積の維持・拡大，後継者の育成，生産量の確保による野菜の安定供給を強く望む

茨城県産地の強みとしてあげた消費地への近さ，生産量の多さは，野菜販売を行う上で課題となっている入荷量の不安定さを解消する上で，重要なポイントとなる。茨城県産地に対しては，作付面積の維持・拡大，後継者の育成，生産量の確保による野菜の安定供給を強く望む。

◎系統共販率，組織力を高め，品質の向上に取り組んでいただきたい

一方，数量があっても品質に産地間差，個人間差があっては，強みが活かしきれない。系統共販率の低さは，大消費地に近いが故の弱みとも言えるが，茨城県産地に期待するからこそ，相場によって他に流れないよう，共販率，組織力を高め，品質の向上に取り組んでいただきたい。

◎多品目総合産地としてＰＲに力を入れ，茨城県産野菜のファンを作って欲しい

また，茨城県には，日本一の青果物が多くある。昨今は，食材偽装問題で国民の国産志向が露わになったほか，「和食」が世界無形文化遺産に登録されるなど，改めて国産の野菜が注目される気運がある。ぜひとも，多品目総合産地としてPRに力を入れ，茨城県産野菜のファン作りを進めて欲しい。

茨城県の各産地には，市場のニーズにあった新たな品目の生産や新たな契約取引に挑戦するフットワークとチャレンジ精神を期待する。

Ⅱ　今後伸ばして行きたい品目

茨城野菜研究会では，下記8品目について，茨城県内における生産の拡大を提案する。

①他産地で生産が減少しており，茨城での生産拡大を期待する重要品目

品目名	主な提案理由と内容
◎秋冬ねぎ	茨城県産で周年供給できるよう，秋冬ねぎ（11～3月）の生産拡大を提案する。 年末年始等秋冬ねぎの需要はある。結束ニーズへの対応や，品質の向上に取り組んでいただきたい。
春にんじん	5～7月どりの春まきトンネル栽培で，予冷をかけた鮮度の高いにんじん産地の育成を提案する。 他県の大産地では生産が減少しており，新たな産地も出てきているが未だ品薄傾向である。
ほうれんそう	周年の生産拡大を提案する。 栽培が難しく，コマツナにシフトしている産地が多いが，ほうれんそうの需要は今後も見込まれる。可能ならば夏季にも出荷を望む。

②需要が伸びている品目

◎アスパラガス	2～10月上旬の長期間安定出荷できる産地の育成を提案する。 量販店では売り場単価の高いアスパラガスを欲しており，今後も取扱いを伸ばせる品目である。全国的に生産量は増えてきているが，需要増から不足気味。特に，4～5月の春芽アスパラガスの入荷が不足している。
◎ズッキーニ	業務用を含め，ズッキーニの消費量は増えている。4～6月に出荷できる産地の育成を提案する。 5月下旬～6月にかけて茨城県産の占める割合も高くなってきた。5月については宮崎，千葉，6月については長野，群馬など他県産地の生産も増えてきたが，需要はある。品質向上，安定出荷に取り組んでいただきたい。
オクラ	外観や鮮度重視のニーズに対応し，品質にこだわった産地の育成を提案する。 現状は九州産地中心の入荷となっており，天候に左右され出荷が不安定で，遠隔地からの輸送では鮮度低下が課題となっている。7～8月は各産地の露地物がピークを迎えて競合するが，4～5月，また秋以降12月の出荷を望む。
カリフラワー	4月～6月に安定的にカリフラワー出荷ができる産地の育成を提案する。 年々産地が減少しているが，春夏季に需要はある。茨城が出荷している4～6月は競合産地が少なく，市場としてもこの時期のカリフラワーが欲しい。 生産の拡大と併せて，規格と品質を統一し，良品質なものを出荷できる産地育成を提案する。
ブロッコリー	冬まき初夏どりで花蕾が 14cm 程度の大玉ブロッコリーの生産拡大を提案する。 他県産地でも生産は増えているが，出荷が不安定であり，品質，量ともに安定した産地育成を望む。黄変しやすいので，消費地に近い茨城からの出荷に期待する。特に，冬，春（1月，4月）の出荷を望む。

参考)その他，茨城野菜研究会会員から，茨城での生産拡大・産地化を提案する品目として挙げられたもの。

品目	用途，時期	理由
キャベツ	加工業務用　1～6月	関東における業務用キャベツの中心産地は冬から春にかけては愛知県のみであり，安定供給量に欠けている。各顧客より近在産地の安定供給の希望あり。
	加工業務用 11月～3月	愛知，九州に頼り過ぎているため，近い産地で。
ハクサイ	加工業務用 11～4月	漬け物加工業者の伸長の為。
サニーリーフ	加工業務用 11～3月	愛知，九州に頼り過ぎているため，近い産地で。
トマト	小売用　9～2月	産地背景的に荷が薄い。
	小売用　4～3月 (周年)	需要が安定している。
インゲン	加工業務用　4～7月	西南暖地の出荷が終了した後，中心産地が無い為。
スナップえんどう	小売用　4～7月	需要が伸びている，競合産地が少ない。
ネギ	加工業務用，小売用 4月下～5月上 小売用　6～7月	端境期で良品の出荷が少ない(千葉坊主不知減少，個選含む)。 東北産の出荷前。
シュンギク	加工業務用，小売用 7～9月	端境期だが，業務中心に人気があり，なくてはならない品目。高単価推移している。
八ツ頭	加工業務用，小売用 9～3月	系統品が欲しい。
カブ	小売用　12～4月	冬期に安定した産地が欲しい。
ダイコン	小売用	春大根，秋大根，生食用の増加を望む。

４、新たな取引，新産地育成などの取組を行う上で必要なこと

新たな取引，新たな品目に取り組むには，再生産価格に見合う品目，作型を十分検討し，末端の販売先を確保した上で作付を推進する必要がある。

このため，産地を育成する上では，卸が産地と顧客との間を取り持ちながら，販売先(量販店，業務関係)，卸，産地が三位一体で安定販売の方法や，契約取引の内容，それに対応できる体制の整備をするなどをすすめることが併せて必要である。

そのためには何より，産地と市場とがお互い，直接会って行うコミュニケーションを充実させ，情報を共有化し，信頼関係を構築することが重要であると考える。茨城野菜研究会では今後も活動の中で，産地との交流を進めて行きたい。

東京都中央卸売市場における野菜取扱高

★金額順

	金額順	産地	1970年 昭和45年 金額 億円	数量 トン	順位	産地	1980年 昭和55年 金額 億円	数量 トン	順位	産地	1990年 平成2年 金額 億円	数量 トン	順位	産地	2000年 平成12年 金額 億円	数量 トン	順位
野菜		合計	1,133.1	1,586,664	―	合計	3,112.9	1,812,276	―	合計	4,431.6	1,879,517	―	合計	3,603.0	1,794,310	―
	1	千葉	199.5	298,127	1	千葉	492.4	320,016	1	千葉	637.6	310,902	1	千葉	465.8	280,621	1
	2	埼玉	141.2	183,606	3	茨城	312.9	246,336	2	茨城	438.6	213,636	3	茨城	328.9	201,100	3
	3	茨城	121.6	232,566	2	埼玉	295.2	164,891	4	埼玉	342.6	118,806	5	北海道	259.7	224,845	2
	4	群馬	91.0	117,276	5	群馬	257.7	137,290	5	北海道	301.6	256,807	2	群馬	229.4	121,094	4
	5	北海道	88.6	150,369	4	北海道	230.5	242,476	3	群馬	262.0	119,915	4	埼玉	221.4	90,595	6
	6	高知	63.3	37,947	13	長野	154.6	78,849	6	長野	242.8	88,493	6	長野	192.3	97,815	5
	7	東京	58.0	80,573	6	愛知	150.1	58,110	9	愛知	204.6	78,140	7	愛知	166.0	74,300	7
	8	静岡	54.6	43,559	12	静岡	138.9	48,168	12	福島	180.2	61,722	8	福島	124.7	48,324	10
	9	長野	50.5	68,359	8	高知	117.1	26,992	14	高知	175.9	31,425	15	静岡	124.2	39,425	12
	10	福島	43.5	53,898	10	東京	111.6	67,151	7	静岡	153.5	44,838	13	青森	122.8	57,960	9
	11	愛知	41.7	60,383	9	栃木	100.7	52,845	10	栃木	152.0	51,698	10	栃木	122.1	46,579	11
	12	栃木	39.2	51,666	11	福島	94.2	50,131	11	青森	118.2	47,835	12	岩手	85.6	37,355	14
	13	神奈川	29.9	71,742	7	神奈川	84.3	60,081	8	岩手	108.5	43,767	14	中国	79.2	35,445	15
	14	山梨	13.3	21,900	14	岩手	57.6	32,301	13	東京	108.3	48,095	11	神奈川	55.3	59,611	8
	15	岩手	9.1	15,027	15	青森	37.6	19,550	15	神奈川	59.7	53,625	9	佐賀	41.1	37,618	13

	金額順	産地	2005年 平成17年 金額 億円	数量 トン	順位	産地	2006年 平成18年 金額 億円	数量 トン	順位	産地	2007年 平成19年 金額 億円	数量 トン	順位	産地	2008年 平成20年 金額 億円	数量 トン	順位
野菜		合計	3,260.1	1,578,340	―	合計	3,413.3	1,559,463	―	合計	3,343.3	1,562,394	―	合計	3,458.7	1,584,549	―
	1	千葉	407.2	240,931	1	千葉	398.3	224,957	1	茨城	401.6	203,325	3	茨城	427.4	211,164	3
	2	茨城	371.8	207,803	2	茨城	389.5	200,493	2	千葉	372.9	230,385	1	千葉	402.8	224,505	2
	3	北海道	231.0	195,674	3	北海道	243.5	193,798	3	北海道	245.2	213,080	2	北海道	262.9	231,896	1
	4	群馬	199.6	112,036	4	群馬	223.1	112,342	4	群馬	215.3	109,080	4	群馬	208.7	109,120	4
	5	埼玉	180.6	71,770	6	埼玉	181.8	68,915	7	長野	177.3	86,133	5	埼玉	180.4	63,631	7
	6	愛知	167.1	60,337	7	長野	166.3	85,917	5	埼玉	172.8	63,788	6	長野	175.9	87,572	5
	7	高知	146.2	29,444	15	愛知	160.6	70,340	6	高知	154.0	29,281	15	高知	163.4	28,975	15
	8	長野	137.9	84,096	5	高知	152.1	28,257	15	愛知	147.5	63,555	7	愛知	159.1	67,744	6
	9	栃木	115.8	38,209	11	青森	128.1	59,878	8	青森	131.7	62,273	8	青森	133.6	60,499	8
	10	青森	112.3	57,185	8	栃木	119.2	35,972	12	栃木	123.9	37,065	12	栃木	123.2	37,406	11
	11	福島	107.7	42,157	10	福島	116.5	40,968	10	福島	120.6	41,172	10	福島	117.1	43,109	10
	12	静岡	104.3	30,330	14	静岡	108.4	31,951	14	静岡	99.7	30,754	13	静岡	102.4	31,131	14
	13	岩手	75.9	32,166	13	岩手	83.1	32,146	13	岩手	81.9	30,532	14	熊本	74.7	23,098	17
	14	熊本	65.0	18,355	18	鹿児島	74.7	24,711	16	熊本	72.5	21,892	18	岩手	74.6	31,938	13
	15	鹿児島	64.2	21,060	16	宮崎	68.0	16,203	21	鹿児島	69.0	24,281	16	鹿児島	72.9	23,792	16

東京都中央卸売市場における野菜取扱高

★金額順

H25年で野菜は7年連続1位

	金額順	産地	2009年 平成21年 金額 億円	数量 トン	順位	産地	2010年 平成22年 金額 億円	数量 トン	順位	産地	2011年 平成23年 金額 億円	数量 トン	順位	産地	2012年 平成24年 金額 億円	数量 トン	順位
野菜		合計	3,413.4	1,584,168	ー	合計	3,658.3	1,508,212	ー	合計	3,393.5	1,529,997	ー	合計	3,526.2	1,572,656	ー
	1	茨城	430.4	219,664	2	茨城	462.8	203,529	2	茨城	372.8	202,193	2	茨城	398.2	202,485	3
	2	千葉	373.9	229,764	1	千葉	399.6	208,385	1	千葉	366.8	215,829	1	千葉	393.4	214,072	2
	3	北海道	281.1	213,820	3	北海道	315.2	193,596	3	北海道	293.7	197,718	3	北海道	273.2	226,858	1
	4	群馬	219.0	117,456	4	群馬	229.8	110,292	4	群馬	211.9	108,714	4	群馬	206.7	113,019	4
	5	長野	174.1	90,253	5	長野	202.7	94,980	5	長野	195.0	95,497	5	愛知	203.5	77,924	6
	6	埼玉	159.9	62,561	8	埼玉	173.1	58,397	7	愛知	166.6	71,127	6	長野	168.5	100,041	5
	7	高知	154.0	28,943	15	愛知	170.4	68,949	6	高知	155.2	28,832	13	高知	162.9	28,777	14
	8	愛知	152.5	67,693	6	高知	154.8	27,932	14	埼玉	152.8	55,064	9	埼玉	157.8	54,323	9
	9	青森	134.9	63,178	7	青森	149.3	58,322	8	青森	144.8	60,977	7	栃木	133.5	37,388	10
	10	福島	120.8	42,617	10	栃木	127.0	34,430	11	栃木	118.8	35,671	10	青森	132.2	56,585	7
	11	栃木	119.9	36,952	11	福島	116.9	38,394	10	静岡	97.3	27,693	15	静岡	115.5	28,888	13
	12	静岡	97.4	29,315	14	静岡	102.3	28,465	13	福島	92.9	33,517	11	熊本	114.6	27,503	16
	13	岩手	75.8	30,298	13	熊本	85.4	23,348	17	熊本	91.3	27,946	14	宮崎	90.3	20,262	19
	14	宮崎	74.9	19,080	19	鹿児島	79.9	22,805	18	鹿児島	90.1	26,305	16	鹿児島	84.1	28,890	12
	15	熊本	74.6	22,801	16	宮崎	77.2	18,807	20	宮崎	73.0	18,258	21	福島	76.3	33,616	11

	金額順	産地	2013年 平成25年 金額 億円	数量 トン	順位
野菜		合計	3,615.0	1,571,009	ー
	1	茨城	435.2	207,676	3
	2	千葉	380.3	207,806	2
	3	北海道	307.7	220,889	1
	4	群馬	225.8	110,859	4
	5	長野	199.2	102,696	5
	6	愛知	191.8	76,172	6
	7	高知	159.5	28,673	15
	8	埼玉	151.1	51,790	9
	9	青森	146.7	59,772	7
	10	栃木	136.8	40,596	10
	11	静岡	109.9	28,573	16
	12	熊本	104.8	29,296	14
	13	宮崎	91.7	22,946	19
	14	福島	91.3	31,440	12
	15	鹿児島	81.0	31,305	13

平成25年　主要品目の取扱高

	品目	金額:億円	前年比	平年比
1	レタス類	45.6	101.5%	111.8%
2	ピーマン	42.3	124.3%	96.3%
3	ねぎ	39.8	113.9%	109.5%
4	はくさい	38.2	103.4%	115.5%
5	れんこん	33.4	97.3%	94.2%
6	メロン類	27.5	99.9%	84.2%
7	いちご類	26.5	102.3%	97.2%
8	みず菜	24.9	104.6%	97.4%
9	トマト	21.7	99.6%	83.0%
10	きゅうり	17.5	101.3%	89.6%
11	ほうれんそう	16.3	115.0%	100.5%
12	日本なし類	13.0	94.7%	86.0%
13	かんしょ	12.8	108.2%	107.5%
14	ミニトマト	12.3	131.7%	185.4%
15	にら	11.2	106.6%	91.6%

※H25年は速報値

平年値:東日本大震災があったH23年を除いた,
H19,20,21,22,24年の5年間の平均

茨城県青果物銘柄産地等の指定状況

平成25年8月1日現在

品　目	青果物銘柄産地(指定年度)	青果物銘柄推進産地(指定年度)
1　だいこん		牛久市(平17)
2　にんじん	鉾田市【鉾田・大洋地区】(平9),古河市(平22)	
3　れんこん	かすみがうら市【霞ヶ浦地区】(平元), 小美玉市【玉里地区】(平6),河内町(平13), 土浦市(平17),稲敷市【桜川地区】(平22)	阿見町(平24)
4　春はくさい	八千代町(平21)	坂東市【猿島地区】(平25)
5　しゅんぎく	なめがた※(平12)	
6　ブロッコリー		古河市【総和地区】(平6)
7　レ タ ス	境町(昭59),坂東市【岩井地区】(平3), 結城市(平9)	
8　サニーレタス		古河市【総和地区】(平14)
9　パ セ リ	鉾田市【鉾田・大洋地区】(平18)	
10　み ず 菜	行方市【北浦地区】(平16)	
11　ね　　ぎ	坂東市【岩井地区】(昭59),つくば市(平8)	奥久慈※(平8),境町(平8)
12　に　　ら	小美玉市【美野里地区】(平9), 小美玉市【小川地区】(平10)	筑西市【関城地区】(平元), 茨城町(平19)
13　きゅうり	常総ひかり(昭62),筑西市【協和地区】(平5)	
14　な　　す		奥久慈※(平11)
15　トマト	鉾田市【旭地区】(平元),結城市(平2), 龍ケ崎市(平12),鉾田市【鉾田・大洋地区】(平15)	筑西市【協和地区】(平4), 茨城みなみ※(平18),茨城町(平19), 坂東市【岩井地区】(平22), 坂東市【猿島地区】(平22), 境町(平24)
16　ミニトマト	鉾田市【鉾田・大洋地区】(平15)	
17　かぼちゃ	稲敷市【江戸崎地区】(昭57), 古河市【総和地区】(昭63)	
18　ピーマン	神栖市【波崎地区】(昭58)	
19　い ち ご	行方市【玉造地区】(平5), 鉾田市【鉾田・大洋地区】(平9)	茨城町(平3),北つくば※(平13), ひたちなか市(平19)
20　メ ロ ン	茨城町(昭62),鉾田市【旭地区】(昭57), 鉾田市【鉾田・大洋地区】(平9)	
21　抑制 アールスメロン	鉾田市【旭地区】(平6), 鉾田市【鉾田・大洋地区】(平9)	茨城町(平19)
22　す い か		常総ひかり※(平14),牛久市(平22), 阿見町(平22)
23　こだますいか	北つくば※(平10)	
24　かんしょ	行方市【麻生地区】(昭61)	鉾田市【旭地区】(平12), ひたちなか市【勝田地区】(平24)
25　エシャレット	行方市【玉造地区】(昭63)	
26　せ　　り	なめがた※(平5)	
27　わさび菜	行方市(平21)	
28　にがうり		古河市(平23)
29　な　　し	筑西市【下館地区】(昭60), 筑西市【関城地区】(平3),下妻市(平3), 八千代町(平4),石岡市【八郷地区】(平4), かすみがうら市【霞ヶ浦地区】(平17)	土浦市【新治地区】(昭63), 笠間市【岩間地区】(平元), 石岡市【石岡地区】(平元), かすみがうら市【千代田地区】(平4)
30　く　　り		笠間市(昭60)
計	46産地	31産地

※広域産地

奥久慈(ねぎ)　：常陸太田市,常陸大宮市,大子町
奥久慈(なす)　：常陸太田市,ひたちなか市,常陸大宮市,那珂市,大子町
なめがた　：行方市【麻生・玉造・北浦地区】,潮来市
北つくば　：筑西市【協和・明野・関城地区】,桜川市【真壁・大和地区】
常総ひかり　：常総市【石下地区】,下妻市【千代川地区】
茨城みなみ　：取手市,つくばみらい市

平成25年度 茨城野菜研究会会員名簿

No.	会社名	所属	職名	氏名
1	東京青果株式会社	野菜第一事業部	取締役部長	村野　伸一郎
2	東京荏原青果株式会社	野菜第3部	部長代理	西山　賢
3	東京神田青果市場株式会社	野菜第二事業部	副部長	内田　誠
4	東京シティ青果株式会社	野菜第2部	課長補佐	二野屏　泰弘
5	東京千住青果株式会社	野菜2部	次長	針谷　光雄
6	東京荏原ベジフル株式会社	営業部野菜課	課長	田附　肇
7	東京千住青果株式会社　葛西支社	野菜部2課	課長代理	富田　貴志
8	東京豊島青果株式会社　板橋支社	野菜部	次長	関口　正三
9	東京富士青果株式会社	野菜3部	次長	市川　喜英
10	東京豊島青果株式会社	野菜部	次長	北澤　義明
11	東京新宿ベジフル株式会社	野菜部1グループ	副部長	小林　正広
12	横浜丸中青果株式会社	営業4部	次長	中丸　洋一
13	金港青果株式会社	野菜第3部第4グループ	次長	鈴木　友洋
14	金港青果株式会社　南部支社	野菜グループ	次長	大里　滋
15	東一川崎中央青果株式会社	野菜一部	課長	清水　弘樹
16	JA全農青果センター株式会社　神奈川センター	青果事業部	営業担当部長	茂木　俊光
17	東京多摩青果株式会社	野菜第二部	課長	阿川　正美
18	東京千住青果株式会社　東葛支社	野菜部	次長	渡辺　修
19	東京シティ青果株式会社　千葉支社	野菜部	野菜部部長兼 営業推進部部長	岩瀬　道夫
20	長印船橋青果株式会社	野菜部	部長	三枝　由夫
21	マルカ千葉県柏中央青果株式会社	野菜部第一課	課長	川上　勝浩
22	千葉青果株式会社	野菜部第二課	副部長	吉田　浩克
23	水戸中央青果株式会社	野菜第一部野菜一課	課長	佐藤　信一
24	埼玉県中央青果株式会社	第二営業部第2グループ	課長	宿谷　佳一
25	株式会社大宮中央青果市場	蔬菜部	蔬菜部第3課 課長代理	渋谷　成
26	浦和中央青果市場株式会社	野菜部	取締役部長	内田　浩正
27	JA全農青果センター株式会社　東京センター	青果事業部野菜2グループ	マネージャー	松本　寿次
28	株式会社熊谷青果市場	野菜部	課長	畑中　二三夫
29	川越ベジフル株式会社	営業第1部	次長	田渕　聡
30	東一宇都宮青果株式会社	野菜2部	課長	坂入　照夫
31	さいたま春日部市場株式会社	野菜部	課長	小泉　多朗

平成25年度 茨城野菜研究会洋菜部会会員名簿

No.	会社名	所属	職名	氏名
1	東京青果株式会社	野菜第一事業部	副部長	鈴木　秀臣
2	東京荏原青果株式会社	野菜第2部	課長代理	志村　浩
3	東京神田青果市場株式会社	野菜第一事業部	主任	船水　鷹
4	東京シティ青果株式会社	野菜第4部第2課	課長	吉守　隆美
5	東京千住青果株式会社	野菜1部	課長代理	高橋　一也
6	東京荏原ベジフル株式会社	営業部野菜課	課長	田附　肇
7	東京千住青果株式会社　葛西支社	野菜部1課	課長代理	喜多　亮介
8	東京豊島青果株式会社　板橋支社	野菜部	次長	高山　浩司
9	東京富士青果株式会社	野菜2部	課長	松本　圭介
10	東京豊島青果株式会社	野菜部	次長	中村　昭則
11	東京新宿ベジフル株式会社	野菜部4グループ	課長補佐	滑川　慎二
12	横浜丸中青果株式会社	営業4部	副部長	岡本　光一
13	金港青果株式会社	野菜第1部第2グループ	次長	大塚　伸行
14	金港青果株式会社　南部支社	野菜グループ	次長	大里　滋
15	東一川崎中央青果株式会社	野菜一部	係長	染谷　雄司
16	JA全農青果センター株式会社　神奈川センター	青果事業部野菜第2グループ	マネージャー	大塚　恭輝
17	東京多摩青果株式会社	野菜第一部	副部長	箕輪　昌賢
	東京多摩青果株式会社	野菜第一部	課長	天沼　広充
18	東京千住青果株式会社　東葛支社	野菜部	職員	鈴木　喝磨
19	東京シティ青果株式会社　千葉支社	野菜部第2課	課長	色川　仁志
20	長印船橋青果株式会社	野菜部	係長	角頼　文男
21	マルカ千葉県柏中央青果株式会社	野菜部第一課	係長	坂斉　哲
22	千葉青果株式会社	野菜部第二課	次長	下川　清一
23	水戸中央青果株式会社	野菜第一部 野菜二課	課長	中庭　博文
24	埼玉県中央青果株式会社	第一営業部第3グループ	主任	成田　和馬
25	株式会社大宮中央青果市場	蔬菜部	蔬菜部第3課 課長	島野　明久
26	浦和中央青果市場株式会社	野菜部	担当	天沼　悠樹
27	JA全農青果センター株式会社　東京センター	青果事業部野菜2グループ	マネージャー	松本　寿次
28	株式会社熊谷青果市場	営業部	部長	羽鳥　一広
29	川越ベジフル株式会社	営業第2部	部長	種村　眞司
30	東一宇都宮青果株式会社	野菜2部	課長代理	杉野　敦史
31	さいたま春日部市場株式会社	野菜部	主任	飛鳥馬　大作

歴代役員名簿

No.	年度	会長	会社名	副会長	会社名	副会長	会社名	監事	会社名	監事	会社名	葉茎菜部会長	会社名	果菜部会長	会社名	根菜部会長	会社名	洋菜部会長	会社名	促成部会長	会社名	常任幹事	
1	49	村田　秀男	東京新宿青果	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	－		－		昭和57年まで、幹事会社16社が役員として参画した。										坂本　文男	岡野　愛次
2	50	村田　秀男	東京新宿青果	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	－		－												坂本　文男	岡野　愛次
3	51	村田　秀男	東京新宿青果	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	－		－												坂本　文男	鬼柳　三四五
4	52	村田　秀男	東京新宿青果	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	－		－												坂本　文男	鬼柳　三四五
5	53	村田　秀男	東京新宿青果	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	－		－												坂本　文男	鬼柳　三四五
6	54	村田　秀男	東京新宿青果	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	門田　強	江東青果	鈴木　芳雄	東京築地青果											栗原　満史	中山　泰雄
7	55	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	門田　強	江東青果	村田　秀男	東京新宿青果	鈴木　芳雄	東京築地青果											西村　信	中山　泰雄
8	56	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	門田　強	江東青果	村田　秀男	東京新宿青果	鈴木　芳雄	東京築地青果											西村　信	中山　泰雄
9	57	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	門田　強	江東青果	村田　秀男	東京新宿青果	鈴木　芳雄	東京築地青果											西村　信	松崎　順二
10	58	浅見　久	東京青果	斉藤　富雄	横浜丸中青果	門田　強	江東青果	村田　秀男	東京新宿青果	鈴木　芳雄	東京築地青果	村田　秀男	東京新宿青果	大澤　義光	金港青果	鈴木　芳雄	東京築地青果	高橋　勝男	東京築地青果	虻川　光弘	東京青果	赤岩　龍二	谷津　仲男
11	59	浅見　久	東京青果	－		門田　強	江東青果	前野　利夫	東京千住青果	土井　安雄	東京中央青果	門田　強	江東青果	大澤　義光	金港青果	鈴木　芳雄	東京築地青果	高橋　勝男	東京築地青果	虻川　光弘	東京青果	坂本　文男	松崎　順二
12	60	浅見　久	東京青果	－		門田　強	江東青果	前野　利夫	東京千住青果	土井　安雄	東京中央青果	門田　強	江東青果	大澤　義光	金港青果	鈴木　芳雄	東京築地青果	高橋　勝男	東京築地青果	虻川　光弘	東京青果	坂本　文男	対間　保夫
13	61	浅見　久	東京青果	土方　貞信	東京新宿青果	土井　安雄	東京中央青果	間宮　隆	金港青果	－		深田　丈寿	横浜丸中青果	山野井　隆俊	東京築地青果	梁島　平	東京千住青果	木村　照夫	東京青果	虻川　光弘	東京青果	坂本　文男	対間　保夫
14	62	土方　貞信	東京新宿青果	－		土井　安雄	東京中央青果	間宮　隆	金港青果	－		深田　丈寿	横浜丸中青果	山野井　隆俊	東京築地青果	梁島　平	東京千住青果	木村　照夫	東京青果	山本　義雄	東京築地青果	坂本　文男	対間　保夫
15	63	土方　貞信	東京新宿青果	土井　安雄	東京中央青果	宮本　修	東京青果	間宮　隆	金港青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	深田　丈寿	横浜丸中青果	山野井　隆俊	東京築地青果	梁島　平	東京千住青果	木村　照夫	東京青果	山本　義雄	東京築地青果	坂本　文男	中山　泰雄
16	1	土方　貞信	東京新宿青果	土井　安雄	東京中央青果	宮本　修	東京青果	間宮　隆	金港青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	深田　丈寿	横浜丸中青果	山野井　隆俊	東京築地青果	梁島　平	東京千住青果	木村　照夫	東京青果	山本　義雄	東京築地青果	坂本　文男	中山　泰雄
17	2	土方　貞信	東京新宿青果	土井　安雄	東京中央青果	宮本　修	東京青果	間宮　隆	金港青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	深田　丈寿	横浜丸中青果	山野井　隆俊	東京築地青果	梁島　平	東京千住青果	坂本　喜孝	全農大田市場	山本　義雄	東京築地青果	坂本　文男	中山　泰雄
18	3	土方　貞信	東京新宿青果	土井　安雄	東京中央青果	宮本　修	東京青果	間宮　隆	金港青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	深田　丈寿	横浜丸中青果	山野井　隆俊	東京築地青果	梁島　平	東京千住青果	坂本　喜孝	全農大田市場	山本　義雄	東京築地青果	本田　宏一	貝塚　洋
19	4	土方　貞信	東京新宿青果	土井　安雄	東京中央青果	宮本　修	東京青果	間宮　隆	金港青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	深田　丈寿	横浜丸中青果	山野井　隆俊	東京築地青果	梁島　平	東京千住青果	坂本　喜孝	全農大田市場	山本　義雄	東京築地青果	本田　宏一	貝塚　洋
20	5	土方　貞信	東京新宿青果	土井　安雄	東京中央青果	宮本　修	東京青果	間宮　隆	金港青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	深田　丈寿	横浜丸中青果	山野井　隆俊	東京築地青果	梁島　平	東京千住青果	坂本　喜孝	全農大田市場	山本　義雄	東京築地青果	大武　良憲	井坂　正三
21	6	深田　丈寿	横浜丸中青果	梁島　平	東京千住青果	西村　武忠	東京青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	山野井　隆俊	東京築地青果	間宮　隆	金港青果	比嘉　啓亨	東京新宿青果	小林　昭一	東京中央青果	坂本　喜孝	全農大田市場	瀬戸　晴一	東京青果	大武　良憲	井坂　正三
22	7	深田　丈寿	横浜丸中青果	梁島　平	東京千住青果	西村　武忠	東京青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	山野井　隆俊	東京築地青果	山野井　隆俊	東京築地青果	比嘉　啓亨	東京新宿青果	小林　昭一	東京中央青果	坂本　喜孝	全農大田市場	瀬戸　晴一	東京青果	幸田　浩俊	金原　隆一
23	8	深田　丈寿	横浜丸中青果	梁島　平	東京千住青果	西村　武忠	東京青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	山野井　隆俊	東京築地青果	小松　健	東京淀橋青果	山野井　隆俊	東京築地青果	小林　昭一	東京中央青果	金澤　誠	東京築地青果	瀬戸　晴一	東京青果	幸田　浩俊	金原　隆一
24	9	深田　丈寿	横浜丸中青果	－		西村　武忠	東京青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	山野井　隆俊	東京築地青果	小松　健	東京淀橋青果	山野井　隆俊	東京築地青果	小林　昭一	東京中央青果	金澤　誠	東京築地青果	瀬戸　晴一	東京青果	太田　秀雄	吉村　次男
25	10	深田　丈寿	横浜丸中青果	鈴木　寛	東京青果	小林　昭一	東京中央青果	三浦　孝雄	東京豊島青果	横山　茂樹	江東青果	針谷　光雄	東京千住青果	山野井　隆俊	東京築地青果	小松　健	東京淀橋青果	金澤　誠	東京築地青果	瀬戸　晴一	東京青果	太田　秀雄	吉村　次男
26	11	深田　丈寿	横浜丸中青果	鈴木　寛	東京青果	小林　昭一	東京中央青果	－		横山　茂樹	江東青果	針谷　光雄	東京千住青果	山野井　隆俊	東京築地青果	小松　健	東京淀橋青果	金澤　誠	東京築地青果	相澤　明	横浜丸中青果	大和田　賢一	原田　久男
27	12	鈴木　寛	東京青果	針谷　光雄	東京千住青果	小林　昭一	東京中央青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	横山　茂樹	江東青果	渡辺　秀	東京豊島青果	山野井　隆俊	東京築地青果	小松　健	東京淀橋青果	金澤　誠	東京築地青果	狩野　甲吉	全農大田市場	大和田　賢一	原田　久男
28	13	鈴木　寛	東京青果	針谷　光雄	東京千住青果	小林　昭一	東京中央青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	横山　茂樹	江東青果	渡辺　秀	東京豊島青果	山野井　隆俊	東京築地青果	小松　健	東京淀橋青果	金澤　誠	東京築地青果	狩野　甲吉	全農大田市場	神永　和三	原田　久男
29	14	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	山野井　隆俊	東京築地青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	多田　進一	東京多摩青果	渡辺　秀	東京豊島青果	鷲野　郁夫	東京新宿青果	二野屏　泰弘	東京中央青果	堀川　高利	東京千住青果	狩野　甲吉	全農大田市場	神永　和三	藤田　一雄
30	15	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	渡辺　秀	東京豊島青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	今　勝弘	東京多摩青果	渡辺　秀	東京豊島青果	鷲野　郁夫	東京新宿青果	二野屏　泰弘	東京シティ青果	堀川　高利	東京シティ青果	狩野　甲吉	東京荏原青果	神永　和三	藤田　一雄
31	16	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	渡辺　秀	東京豊島青果	吉原　清	金港青果	今　勝弘	東京多摩青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	鷲野　郁夫	東京新宿青果	二野屏　泰弘	東京シティ青果	沼　福助	東京シティ青果	狩野　甲吉	東京荏原青果	村田　勝利	藤田　一雄
32	17	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	渡辺　秀	東京豊島青果	吉原　清	金港青果	今　勝弘	東京多摩青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	鷲野　郁夫	東京新宿ベジフル	針生　伸	東京シティ青果	沼　福助	東京シティ青果	狩野　甲吉	東京荏原青果	村田　勝利	鈴木　祐志
33	18	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	針生　伸	東京シティ青果	吉原　清	金港青果	今　勝弘	東京多摩青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	鷲野　郁夫	東京新宿ベジフル	針生　伸	兼任	沼　福助	東京シティ青果	鶴岡　孝幸	東京千住青果	中島　平	大和田　邦秀
34	19	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	針生　伸	東京シティ青果	吉原　清	金港青果	今　勝弘	東京多摩青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	鷲野　郁夫	東京新宿ベジフル	針生　伸	兼任	沼　福助	東京シティ青果	鶴岡　孝幸	東京千住青果	中島　平	大和田　邦秀
35	20	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	針生　伸	東京シティ青果	吉原　清	金港青果	今　勝弘	東京多摩青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	鷲野　郁夫	東京新宿ベジフル	針生　伸	兼任	箕輪　昌賢	東京多摩青果	鶴岡　孝幸	東京千住青果	小森　隆太郎	綿引　昌弘
36	21	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	針生　伸	東京シティ青果	吉原　清	金港青果	今　勝弘	東京多摩青果	中丸　洋一	横浜丸中青果	村松　新五	兼任	針生　伸	兼任	箕輪　昌賢	東京多摩青果	鶴岡　孝幸	東京千住青果	小森　隆太郎	綿引　昌弘
組織改変		会長		副会長		副会長		監事		監事		野菜部会長		野菜部　副会長		野菜部　副会長		洋菜部会長		洋菜部　副会長		洋菜部　副会長	
37	22	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	針生　伸	東京シティ青果	鈴木　友洋	金港青果	今　勝弘	東京多摩青果	村松　新五	兼任	針生　伸	兼任	中丸　洋一	兼任	箕輪　昌賢	東京多摩青果	高橋　一也	東京千住青果	村野　伸一郎	東京青果
38	23	針谷　光雄	東京千住青果	村松　新五	東京青果	針生　伸	東京シティ青果	鈴木　友洋	金港青果	阿川　正美	東京多摩青果	村松　新五	兼任	針生　伸	兼任	中丸　洋一	兼任	箕輪　昌賢	東京多摩青果	高橋　一也	東京千住青果	村野　伸一郎	東京青果
39	24	針谷　光雄	東京千住青果	村野　伸一郎	東京青果	二野屏　泰弘	東京シティ青果	鈴木　友洋	金港青果	阿川　正美	東京多摩青果	村野　伸一郎	兼任					箕輪　昌賢	東京多摩青果	高橋　一也	東京千住青果	鈴木　秀臣	東京青果
40	25	針谷　光雄	東京千住青果	村野　伸一郎	東京青果	二野屏　泰弘	東京シティ青果	鈴木　友洋	金港青果	阿川　正美	東京多摩青果	村野　伸一郎	兼任					箕輪　昌賢	東京多摩青果	高橋　一也	東京千住青果	鈴木　秀臣	東京青果